

森のコンクール

国際森林年の今年、森林・林業、木材利用に関係する取組や活動、作品等を対象にした顕彰が様々おこなわれています。

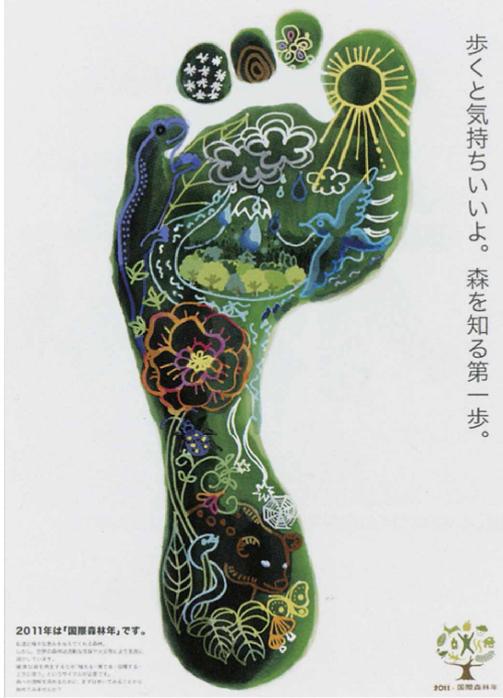
国際森林年の国内テーマは「森を歩く」。サブテーマは「未来に向かって日本の森を活かそう」、「森林・林業再生元年」。今号で紹介する受賞者、受賞作品は、これらのテーマを象徴するものになっています。



2011 国際森林年
小学生作文コンクール



二科展デザイン部



二科展デザイン部



優良木造施設の表彰



2011 国際森林年小学生作文コンクール



間伐・間伐材利用コンクール



優良木造施設の表彰



みどりの学術賞
緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰



間伐・間伐材利用コンクール

2011国際森林年 小学生作文 コンクール

主催：環境NPO オフィス町内会(森の町内会)
協力：株式会社キッズシティージャパン
後援：林野庁

2011国際森林年「日本の森を元気にする」小学生作文コンクールは、「森の木を切って使うことは、日本の森を元気にするために良いことだと思えますか、いいですか」という課題で、小学校3年生から6年生を対象に行なわれました。この作文コンクールは、オフィス古紙のリサイクルと間伐促進による森林の健全化に取り組む環境NPO「オフィス町内会」が主催。審査の結果、グランプリ1名、準グランプリ23名、優秀賞21名が決まりました。

平成23年6月2日(木)に江東区豊洲のキッザニア東京で行われた表彰式では、グランプリ受賞者の牛田大喬君による受賞作文の朗読が行なわれた後、皆川林野庁長官から盾の授与と「日本の山をもっとよくするために(日本の)木を使うことが大切。日本や世界の森のこともこれからの若い人たちに考えてもらえたら嬉しい。」との祝辞がありました。牛田君はオフィス町内会がスポンサーとなっている「キッザニアの森」にて枝打ちを体験しました。この「キッザニアの森」では、森が健康に育つために手入れが必要なことを楽しく学習できるとともに、ノコギリの安全な使い方を学ぶことができます。



グランプリ賞の盾の授与

グランプリ作品

牛田大喬
うしだ ひろたか

「森に手助けは必要だ」

牛田君は作文の中で「森の木を切るのが必要なのは、たとえばメダカやカブトムシなどのペットを育てるときにお手入れをするのが必要なのと、同じだと思います。(中略)だれか森を管理する人がついて、常助手助けをできるようにしたらいいと思います。」と書いており、森の管理を身近なペットの飼育に喩え、森を元気にするための間伐を「手助け」と表現した牛田君の森に対する温かい気づかいが評価されました。



「キッザニアの森」の前で記念撮影

親子林業体験in夏休み

8月23日(火)、高尾森林センター(八王子市)で、小学生作文コンクール受賞者の小学生とその家族を対象にした「親子林業体験in夏休み」が開催されました。

参加メンバーの親子13名は、森林ふれあい館にて森林センター職員による人工林の育て方や間伐方法の説明を受けた後、森林へ移動し、実際にノコギリを使って伐採、枝払い、玉切りなどの間伐体験をしました。また、午後からは丸太切りと木工を体験し、八溝山スギの本棚などを作成しました。



高尾森林センターでの林業体験



主催：内閣府

平成23年6月22日(水)、首相官邸において、平成23年(第5回)みどりの学術賞及び平成23年緑化推進運動有功者内閣総理大臣表彰授賞式が行われました。授賞式後、受賞者が御所において天皇皇后両陛下による御接見を賜りました。



天皇皇后両陛下による御接見(御所)

みどりの学術賞

「みどりの学術賞」は、国内において植物、森林、緑地、造園、自然保護等に係る研究、技術の開発その他「みどり」に関する学術上の顕著な功績のあった個人に内閣総理大臣が授与するものです。

今年には田畑貞壽千葉大学名誉教授及び、佐藤公行岡山大学名誉教授の2名が受賞しました。

田畑貞壽 千葉大学 名誉教授

造園学・環境計画学。一定の地域内にある樹林、草地、水辺、農地などのみどりで覆われた土地を「緑被地」、その割合を「緑被地率」という新たな概念と指標を用いて、地域環境におけるみどりの多面的機能の数量的検証と地域の緑被地構造解析を行い、多様な緑被空間の多面的機能の組合せによる「グリーン・マトリックスシステム」とよぶ独自の緑地環境計画手法を提案。日本各地の緑地計画や自然環境保全計画として汎用され、みどりの都市づくりなどを推進するとともに、日本の自然保護運動を支え、斯学の発展に大きく貢献しました。

佐藤公行 岡山大学 名誉教授

植物生理学。植物の光合成の過程で起きる光化学反応は葉緑体のチラコイド膜の中で行われます。その最初の反応である水を分解して酸素とプロトンをつくる反応の場である光化学系II複合体を、その活性を保持したまま高純度に精製することに世界に先駆けて成功するとともに、この複合体の全体像を初めて明らかにしました。これら一連の研究成果は極めて高く評価され、その後の光化学系、ひいては光合成研究の発展に大きく寄与しました。

緑化推進運動有功者内閣総理大臣表彰

緑化推進運動有功者内閣総理大臣



授賞式列席者(官邸)

表彰は、緑化推進運動の実施について顕著な功績のあった個人又は団体に対し、内閣総理大臣が表彰を行います。昭和59年から実施して、28回目となった今年の受賞者は、個人が1名、団体が7団体、地方公共団体が1団体、学校が3校、企業が1社の計13者・団体となりました。

【個人】

○又吉康仁(沖縄県那覇市)

【団体】

○高松コスモスライン運動推進協議会

○尺文山百樹の森づくりボランティア協議会 (秋田県湯沢市)

○四方ガーデニング愛好会(富山県富山市)

○興津川保全市民会議(静岡県静岡市)

○キリンディスプレイフリー株式会社

○富士御殿場蒸溜所(静岡県御殿場市)

○南伊豆町農業振興会(静岡県賀茂郡南伊豆町)

○蟹江町(愛知県海部郡蟹江町)

○特定非営利活動法人自然回復を試みる会

○ビオトープ孟子(和歌山県海南市)

○世羅町立伊尾小学校(広島県世羅郡世羅町)

○東温市立西谷小学校(愛媛県東温市)

○特定非営利活動法人天明水の会(熊本県熊本市)

○鹿児島市立吉田北中学校(鹿児島県鹿児島市)

○鹿見島市立吉田北中学校(鹿児島県鹿児島市)

○面受賞者の詳細な功績等については、ホームページで確認できます。

【みどりの学術賞】

<http://www.rinya.maf.go.jp/j/press/hozen/pdf/110615-09.pdf>

<http://www.rinya.maf.go.jp/j/press/hozen/pdf/110615-08.pdf>

<http://www.rinya.maf.go.jp/j/press/hozen/pdf/110615-09.pdf>

<http://www.rinya.maf.go.jp/j/press/hozen/pdf/110615-09.pdf>

<http://www.rinya.maf.go.jp/j/press/hozen/pdf/110615-09.pdf>

<http://www.rinya.maf.go.jp/j/press/hozen/pdf/110615-09.pdf>

<http://www.rinya.maf.go.jp/j/press/hozen/pdf/110615-09.pdf>

平成23年度
優良木造施設
の表彰

主催：木材利用推進中央協議会
後援：農林水産省

木材利用推進中央協議会は、毎年、優良木造施設コンクールを開催しています。本年度で26回目となりますが、昨年、公共建築物等の木材利用促進法制度が公布・施行されたこともあり、全国からの応募は、昨年度のほぼ1.5倍の112点に及びました。

特に、木材利用推進等に寄与すると認められた優良な応募施設に対して、農林水産大臣賞1点、林野庁長官賞4点等が授与されます。

表彰式は、7月26日(火)に東京都江東区新木場の木材会館で行われました。

農林水産大臣賞

亀山市立関中学校(学校施設)

◎所在地：三重県亀山市

◎主要樹種：スギ・カラマツ

学校は、旧東海道の関宿に近接し、「まちづくり」と調和のとれた学校施設等の基本コンセプトで、教室棟と管理棟の二棟とその中庭空間が、関宿の町並みに模して配置されています。柱には地場産のスギ丸太や県産のスギ集成材、梁には国産カラマツ集成材が使用されています。特に多目的



亀山市関中学校

ホールは、樹齢百年を超える直径約50cm、高さ7〜9mの地場産のスギ丸太が原木に近い形で使用されています。

林野庁長官賞

雲の上のギャラリー(展示施設)

◎所在地：高知県高岡郡橋原町

◎主要樹種：スギ・ヒノキ

町内のFSC認証森林から搬出された木材を利用しています。施設は「ギャラリー」、「渡り廊下」、「ブリッジ」の三つにわかれ、伝統的な「斗拱」という木材表現をモチーフにして、木材利用の取組を試してみるなど、森林地域に根ざして



雲の上ギャラリーブリッジ部分

きた「木の文化」を伝える施設の一つとして建築されました。

和田保育園(保育園施設)

◎所在地：富山県高岡市

◎主要樹種：スギ・米マツ・マツ

保育園の改築にあたって、関係者や保護者からの「幼児期に良い影響を与える木造空間で育てたい」という希望から、木造の在来軸組工法で建築されました。

サテライト型特別養護老人ホーム

「あやめ荘(保健施設)

◎所在地：愛媛県松山市

◎主要樹種：スギ・マツ・ヒノキ

愛媛県の伝統的建物「みのこ造り」の家をモチーフに、外壁は焼きスギと漆喰で仕上げられ、地域の自然、風土、景観に溶け込む建物として建築されました。

中土佐町立久礼中学校(学校施設)

◎所在地：高知県高岡郡中土佐町

◎主要樹種：ヒノキ・スギ

「子供達と自然との距離は子供達とその健全な成長の距離に比例する」との考えの下に、地域材である四万十ヒノキを積極的に活用して建築されました。



主催：GTF グレーター トウキョウ
フェスティバル 実行委員会
後援：林野庁・間伐推進中央協議会

林野庁長官賞

共生機構株式会社

「間伐材を利用した

『間伐林立型枠工と擁壁工』

◎間伐材樹種：スギ・ヒノキ・マツ類

間伐林立型枠工は、コンクリートの残地型枠、補強土擁壁工に間伐材を有効活用することで、間伐材の利用促進・コスト削減を図るだけでなく、二酸化炭素削減にも寄与しています。また、間伐材を縦に配置したことで、周囲の自然に溶け込むデザインです。部材は地場産の間伐材を利用し、構造も簡易であるため、組立や部材が寿命に達した時のリニューアル(間伐材の取替)も容易に行うことができ、より一層の間伐材の利用促進が期待できます。

間伐・間伐材利用コンクールは、間伐の推進及び間伐材の利用拡大に貢献するため、それらに関する様々な取組の事例やアイデア商品を集めて表彰しています。国際森林年でもある本年は、GTFが主催する「GTFグリーンチャレンジのつどい」(8月20日(土)・21日(日))の企画の一環として、林野庁、間伐推進中央協議会がタイアップする形で行われました。表彰式が行われた21日は、朝から小雨の降るあいにくの天気でしたが、多くの人が見守る中、野外特設ステージにて各賞の発表が行われました。GTF「グレーター トウキョウ フェスティバル」は、「お祭り」とイベントで東京圏の夏をもっと元気に!」を目的に活動しています。



受賞される共生機構株式会社 鈴木さん



間伐林立型枠工

GTF賞

木・net やまなし推進協議会

「山梨産FSC認証杉富士山型複合遊具」

◎間伐材樹種：山梨産FSC認証スギ

富士山型複合遊具は、鳴沢村の観光資源でもある富士山の眺望を活かし、住民の要望を反映させるため、完全オリジナルデザインで設計されました。中山間地域の振興、環境教育、地産地消を目指す目的で、日本で初めて、FSC認証木製遊具製品として、屋外公共公園に設置されました。



富士山型遊具



三県復興希望のかけ箸

間伐推進中央協議会賞

株式会社磐城高箸

「三県復興希望のかけ箸」

◎間伐材樹種：スギ

三県復興希望のかけ箸は、間伐材利用促進はもちろん、東日本大震災において甚大な被害を受けた岩手、宮城、福島県の東北三県を盛り立てるという意味もあり、「気仙杉」、「栗駒杉」、「磐城杉」を使用しています。株式会社磐城高箸の高橋さんは

「地震による風評被害の影響が大きいく、地元から出せる農林水産物が限られる中、何かできることはないかと考え、今回の製品をつくりました。すでに全国展開を視野に入れた商品化が決定しており、売上の一部を復興支援にも活用できればと考えています」と話していました。

受賞者の声

15年前から間伐材を活用した商品開発に取り組んできましたが、「間伐・間伐材利用コンクール」については、新聞の記事を見かけたことがきっかけで、今回、初めて応募しました。

これまでに治山ダム、擁壁工などで使用した間伐材の累積は10万㎡を超え、現在では年間1万㎡を超えるまでに使用量が増えています。

今後は、今回出展した「間伐林立型枠工」の利用推進を図りながら、土木現場における間伐材の使用量を増やしていきたいと考えています。



林野庁長官賞 受賞
共生機構株式会社
鈴木正己さん

第96回 二科展 デザイン部

主催：二科会デザイン部
後援：農林水産省

二科展は、毎年秋に開催される公募による美術展で、絵画・彫刻・デザイン・写真の4部門があります。二科展デザイン部では、毎年、特別テーマを設定してポスターを公募しています。今年は「2011国際森林年」をテーマに、「森林づくり」や「木づかい」など森への理解を深めるためのメッセージ性の高いポスターデザインが公募されました。

応募作品は350作品にのぼり、①テーマと目的性 ②時代感覚(今日性) ③グラフィックアーティ性 ④オリジナリティ ⑤卓越した技術と完成度の観点から農林水産大臣賞1点、林野庁長官賞1点が選定されました。

授賞式は、9月3日(土)、二科展が開催されている六本木の国立新美術館において行われ、プレゼンターを務めた末松林政部長は挨拶の中で、「今回のすばらしい作品を見ていただき、森のことを考えるきっかけになってくれればと思います。」と講評を述べました。



挨拶をする末松林政部長

農林水産大臣賞

周田春奈(広島県)

「暮らしのなかの、木づかい。」

今回初めて二科展に応募した周田さんは、「森とともに生きる」をテーマに、身近にいつも使っている



農林水産大臣賞の周田さんを囲んで

るソファアームをモチーフにしたポスターを制作しました。無駄を排したシンプルでデザインでありながら、想像力をかき立てる訴求力の強さ、国産の木の消費を促すメッセージの明確さが評価され、受賞に至りました。

周田さんは、「山の近くに住んでいることもあり、森のおかげで日本人は豊かに生きていけると実感しています。だからこそ、森がなくなることは悲しいということを感じたくて今回の作品を制作しました。」と作品に込めた思いを語っていました。

周田さんが在籍する穴吹デザイン専門学校では、授業の一環で毎年二科展へ応募しています。引率した尾崎先生は今回の応募に対して、「与えられたテーマについて勉強し、考え、作品をつくるという作業が、生徒にとっていい経験になっています。」と話していました。



農林水産大臣賞 周田春奈(広島)

林野庁長官賞

永本直子(埼玉県)

「歩く気持ちいいよ。森を知る第一歩。」

毎年二科展デザイン部に応募している永本さんは絵具を塗ったインパクトのある足の裏をモチーフに、「森を歩く」をテーマとしたポスターを制作しました。自然、太陽、草花、鳥を足の裏に描いたシンボリックな表現によって、コピーが十分に活かされているところが評価されました。

永本さんは、「制作日数としては例年より短かったのに、林野庁長官賞の受賞を知り、とても驚きました。個人的にも山や森が好きでキャンプに行くことが多いので、その中で体験した森の楽しさを伝えたいと思い制作しました。今回のようなポスターが森に行くきっかけの一つになればうれしいです。」と話していました。



林野庁長官賞 永本直子(埼玉)